

西部センターだより 2号

「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、益田が日本一を記録した日もあった「酷暑」の夏の空気も、気がつけば秋の虫の音を運ぶ空気が変わってきました。ススキの穂も銀色に輝きだし、大人も子どもも夏の半袖から秋の長袖や上着へと装いも変わってきます。10月、今年度の折り返しです。

おかげさまで、上半期に実施した研修に積極的な参加をいただき、充実した内容の学びの場とすることができました（各研修の様子は、当センターHP*1に掲載）。また、相談・支援事業でも当センターを活用いただき、うれしい限りです。さらに、お寄せいただいたお声も励みになりました。研修後の笑顔はスタッフの励みになりますし、お叱りのお言葉や研修中の不安な表情はスタッフの力量アップにつながりました。“研修を企画しても、参加いただいてこそ初めて実施でき、内容も充実したものとなる。相談・支援の窓口を開いていても、利用していただいて初めて生きる”。そんな社会教育の立ち位置を原点にしたとき、「おかげさま」との思いを強くし、より一層ニーズとリクエストを受け止め、社会教育を推進する皆様の学びの場を充実したものにしていかなければ、と考えています。

9月初頭、地域づくりや地域活性化に関わる講演会やシンポジウムに参加しました。【持続可能な地域のデザイン】【課題先進地における地方創生への挑戦】をテーマに、「我がこと意識」「課題にヒント、課題にヒント」「人材の育成」「外の力と視点」「地元力（じもとちから）と外力（そとちから）の協働」「火付け役の本気度」「継続の要も人材養成」などのキーワード*2が語られ、社会教育の推進との深いつながりを実感しました。

共に「地域課題の解決」に向かう取組として、「まちづくり」と社会教育の推進が連携・協働した取組になることが大切だと思います。地域課題の解決や克服に明確な道筋をつける「まちづくり」の活動を、「集って、楽しんで、学んで、動いて、変えていく」社会教育流儀の流れが勢いづけることの必要性を改めて感じました。

下半期には、今年度からスタートした「ファシリテーター養成講座」が始まります。5回シリーズの「公民館等職員研修」も佳境を迎えます。また、スタッフがよりきめ細かく地域に出向いてニーズを把握し、センターの取組に活かす計画も立てています。

下半期も当研修センター事業へのご参加と活用をよろしくお願いいたします。

所長 舟木 志郎

*1 県立西部社会教育研修センター http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/

*2 「」のキーワードは、参加者としてまとめたもので、正確な発言語句ではありません。

今後の研修・講座予定

10/4 (水) 社会教育委員研修
(大田市民会館)

講師
香川大学生涯学習
教育研究センター
センター長/教授
清國 祐二氏

10/13 (金) 第5回公民館等職員研修
実践発表会&ふりかえり(東西合同)
(少年自然の家 江津市)

10/31 (火)
第2回コーディネーター研修
(男女共同参画センターあすてらす 大田市)

講師 教授
岡山大学大学院 熊谷 慎之輔氏
国立教育政策研究所
生涯学習政策研究所
総括研究官
志々田 まなみ氏

H30/1/22 (月) ~2/28 (水)
社会教育主事講習B
(いわみーる)

11/17 (金)・12/6 (水)・12/19 (火)
ファシリテーター養成講座
(いわみーる)





これまでの研修・講座の様子



公民館等職員研修

【PDCAサイクルを活かした公民館事業の実際】

(いわみーる：5/30・6/29・7/14・9/14)

公民館等職員に必要な事業推進のための専門的知識・技能を5回シリーズで学びます。

今年度、西部会場は、8名の方が受講されています。すでに、4回の研修とそれぞれの地域での事業実施が終わり、5回目(10/13)の発表会&ふりかえりを残すのみとなりました。



この研修で、受講生は、地域課題をつかみ、その課題解決に向けての事業を具体的に企画・立案し、地域の人づくり・地域づくりにつなげていきます。

事業は、PDCAサイクルを常に意識し展開していきます。

決して楽な研修内容ではありませんが、地域のために、みなさん！一生懸命に取り組んでおられます。



しまねの社会教育基礎講座

(浜田合庁6/1・益田合庁6/6)

“社会教育の基礎的な考え方や県の社会教育行政”について、浜田・益田両教育事務所の企画幹にわかりやすく講義をしていただきました。

また、事例発表・演習を通して、社会教育の役割や事業を具体的に学び、社会教育を主体的に推進しようとする意識の向上を図りました。

事例発表では、邑南町布施公民館主事の日野貴志郎さんに「地域交通に関する取組」を、益田市二川公民館主事の潮総さんには、「いきいき料理教室」について話していただきました。お二人とも昨年度の公民館等職員研修の修了生で、ここで学んだPDCAサイクルを活かしながら、地域の課題解決に取り組んでおられます。



日野 貴志郎さん

『いきいきと地区内外で活躍する高齢者を増やす』ことを目的に「交通」について取り組みました。高齢者が、路線バスについて学び、利用し、マイ時刻表づくりに取り組んだ結果、活動への意欲が沸き、町営バスの課題を提言するまでになりました。

『健康寿命を延ばして長く元気に生きよう！』を目的に「料理教室」を開催しました。一定の成果はあったけれど・・・。実はその裏に、「住民に長く地域活動にかかわってほしい」という本当のねらいがありました。かかわることを楽しみに、当事者意識をもって動く人を増やすために、更なる一歩を踏み出したいと思います。



潮 総さん

第1回コーディネーター研修

(浜田合庁：6/12)

コーディネーターとしての役割について理解を深め、自らの実践をふり返し、具体的な今後の動きを考える研修でした。

「連携・協働のあり方とコーディネーターのこれから」と題して、大分大学の岡田正彦先生に講義をしていただきました。

連携・協働は目的ではなく手段であること、コーディネーターが考え取り組む連携・協働としては、各立場の人の思いを明確にし共有すること、取組の改善や移行は、計画・実践・振り返りのセットで実施することなどを話されました。



大分大学 岡田 正彦教授



演習では、「連携・協働を進める具体的な動き」について参加者で考えました。グループで、紹介し合った取組の中から、1つのエピソードを選び、それを通して「子どもの育ちを地域ぐるみで支える取組」について考えていきました。

「これから取り組んでみたいこと・必要だと思うこと」では、“子どもの情報を共有する” “育てたい子ども像の共有” “相談できる関係づくり” “ふりかえりが必要だ”などの意見がでました。



親学ファシリテーターブラッシュアップ研修

(いわみーる：7/28)

『親学プログラム2』を進行するために必要な知識やファシリテートの技術を高めるための研修を行いました。

10名の参加者があり、当日発表された2人組で、“親学プログラム2”のプログラムを進行していただきました。

準備の時間が短かったのですが、みなさん、落ち着いた様子で進行をされました。プログラムのアレンジや参加者の意見を板書されるなどの工夫も随所にみられました。その後全体でふり返しをし、日頃の悩みや想いを語り合いました。

これからの活動のヒントになったと思います。研修の中で親役としての参加もあり充実した研修となりました。



実施したプログラム

- 4-③ こんな時、わたしなら・・・ (エピソード)
- 4-② 子どもに届けよう、あなたの思い (ロールプレイ)
- 3-③ SOSを見逃さない (ラベルワーク)